▼ 参加者の声▼

馬場耕三さん (西条 一般公募)

昨年もボランティアで復旧作業に参加させてもらったのですが、上から見たらどんな状態なのかと思い応募しました。実際、上から見たら災害のすごさがよくわかりました。防災に対する備えや組織、地域でのお年寄りや独居老人のことなどいろいろありますので、地元の組織作りが大事だなと感じました。

三原光子さん (小松 一般公募)

子どもが学校の総合学習で地震災害の勉強をしていたので、今回の災害地域視察も勉強になると思って応募しました。山の木の崩れ方が新聞やテレビで見るよりも、実際に見たほうがすさまじかった。多くの人が現場を見て、大変さを市民の人が理解すれば、次の防災につながるのではないでしょうか。

稲井義隆さん (東予 医師会)

広範囲に山肌が崩れ落ちていたのが確認できました。平面から見たのじゃわからないけど、上から見たらかなり広範囲に地肌が見えていました。現場で見るのと上から見るのとは違いました。かなりひどいですね。

越智實一さん (丹原 森林組合)

改めて大災害だったなあと感じました。上から見るのと下から見るのとでは全然感じや度合いが違いました。ですから、本当に山の中に住んでいる人は大変だったなと思いました。確かに雨量も多かったこともありますが、森林整備ができてない所がたくさん崩れていると感じました。治山治水や防災計画、森林整備が大事だなと。できるだけ早い復旧を望みます。













非常に有意義であったと思う。 一へリからみた感想は。 一へリからみを見ると が全体とつながってくる。今回 が全体とつながってくる。今回 か全体とつながってくる。今回 か全体とつながってくる。 一度へリか 全体的なものを見えたので、 一今回の視察での感想 中川 このような災害は 中川 このような災害は でがア各地で起こっている。西条でもアジアで先駆 る。西条でもアジアで先駆 のに行っている取り組み のに行っている取り組み ので表でもアジアで先駆 2日間西条市に滞在し、へリ視察や現地視察をされた、国際環境技術センター・プ国際環境技術センター・プ国際環境技術センター・プログラムアシスタントの中川裕子さんと京都大学大学院・地球環境学堂・助教授のラジブ・ショウさんからのラジブ・ショウさんからいラジブ・ショウさんからいた。

予防防災の文化は教育から 中川裕子さん

森・水・人をつないだ西条ブランドの防災を ラジブ・ショウさん

フ後も続けていただきた

今後の防災対策につい

日常生活の中で、

今回

の記憶を薄れさせないよ

▲災害現場を視察するラジフ (右)・中川の両氏(大浜にて)

とによって、その総合力が 自分の出来ることを行うこ るので、住民一人ひとりが 身という認識を持ってもら 行政、実行するのは住民自 被害をいかに最小限に食 大きな力を発揮する。 うことが重要である。 いろいろな方面が関係す 問題として捉え、 めるかがポイントであ ない防災対策は無 防災は住民が自分たち をつないだ西条ブラン 日本で初めての 00%被害 準備は 西条 防災